

# 日 働 動 労 千 葉

## 放逐せよ 革マルを 労働本部 出さし 首を 労働者の 首 局

84. 11. 20  
No. 1797

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄道）二九三五～六（公衆）〇四七二二七二〇七

### 雇用は闘いと団結で守るべき

\*\*\*\*\*  
動労「本部」革マルは、10万人首切り「分割・民営化」攻撃の突破口である「三本柱」に屈服し、率先して受け入れた。しかも、この恥ずべき大裏切りを「成果」として組合員をだましたりえに、「三本柱」をはね返して不屈に闘っている動労千葉・国労に対して「解雇攻撃をひき出した」なる白を黒と言いくるめる反動的デマをふりまき、組織破壊策動を開始している。「60・3ダイ改」を粉碎し、動労「本部」革マルを国鉄労働運動から放逐しよう。  
\*\*\*\*\*

首切りを認める「労働組合」とは何だ！

国鉄当局は10月9日、「一時帰休」「出向」についての「最終提案」をつきつけ、「9日の24時まで」に当局提案通り妥結しなければ雇用安定協約を破棄する」との恫喝を加えてきた。

「三本柱」は、動労「本部」革マルもベテンの主張（：だからより反動的なのだ！）するよりに、「60・3ダイ改」をはじめとし10万人首切り「分割・民営化」の突破口をなす攻撃であり、首切り攻撃そのものである。

すなわち、自民党財界が永年国鉄を食いものにしてきた結果として生じた「赤字」、合理化の強行で生み出した「過員」の責任をすべて労働者に転嫁し、強制的に退職・休職・出向させることで「解消」しようとするものに他ならない。

労働組合が、労働者を職場から放り出すという協定を締結するなどということが許されるのか！断じてあってはならない。

動労千葉と国労が「雇用安定協約破棄」なる当局の恫喝をもとせず、「三本柱」の受け入れを断固拒否したことはまったく当然であり、これがその真に正しい道である。

「三本柱妥結＝歴史的成果」とうそぶく動労革マルの大ペテン！

ところが、動労「本部」革マルは当局の恫喝に呼応し、鉄労と手に手をとってわれ先にと裏切り

に走った。そして今日、自らの恥ずべき裏切り行為をタナに上げ、「雇用安定協約の存続」「派遣、休職における諸条件の確立と国鉄職員としての身分の保障、復職条件の確立」「強制、強要は行わないとの確認」をかちとったと自賛し、これを「日本労働運動史上かつてない成果（動労関東青年部機関紙『ひばな』No.9）」とうそぶいている。そのうえで、雇用安定協約を破棄された動労千葉や国労等の組合員は指名解雇されるのだなるデマ宣伝を開始している。

動労「本部」革マルのペテン性と反動性は明らかだ。まず、彼らが「成果」と称している「三本柱妥

結」時の「動労―当局、交渉記録抜すい」を見てみよう。

（組合）雇用の安定について、どのように考えるのか。  
（当局）本制度の整備及び有効な活用が図れることを前提として、「雇用の安定等に関する協約（昭和46年6月1日締結）」を維持するための基盤が確保されるものとする。  
（組合）妥結し、制度を定立したなら、どのようにその効果が測れるのか。  
（当局）定立された制度の実績測定を勘案し、本協定の締結組合である貴組合単位でその効果を測る。

当局に「組合員の追い出し」を約束した動労「本部」革マルを許すな！

この「記録」にも明らかのように、「三本柱」が有効に活用されなければ雇用安定協約はいつでも破棄する」ことを当局と動労「本部」は確認しているのである。

動労「本部」革マルは、「雇用を守った」「本人の意志を尊重し強制しないことを確認させた」などとペテンをふりまきながら有頂天だが、そもそもその前提として「三本柱の有効な活用＝一致協力して積極的に推進する」ことを約束しているのである。すなわち、労働組合が当局になり代って休職・出向・退職組合員の追い出しの「実績をつくる」ことを約束した以外の何ものでもない。そもそも、「本人の意志を尊重し、強制はしない」などと本気で当局が考えている位なら、「三本柱」提案の意味は無いのである。

当局の攻撃はそんなに甘くはないのだ。すでに、動労「本部」革マルは、年輩者等への暴力的追い出し「実績づくり」を開始しており（東京に於る「靴に汚水を入れる」「便所に名指しで落書き」等の例）、同時に「雇用安定協約を破棄された動労千葉・国労等を指名解雇に：」と当局に哀願してまわっていることは明らかだ。労働者の雇用を守る道は、あくまで労資の力関係であり、強固な団結力・組織力をもって闘う以外にないのだ。

当局の先兵「動労「本部」革マル」を国鉄の全職場から一掃し、「60・3」に勝利しよう。